

むかしあそこはああだった

用賀は大山道が横切り、江戸時代には大山詣の旅人で大変賑わった街です。今でもゆかりの史跡や寺社が多数残っていますが、時代の流れとともに無くなってしまった史跡も数多くあります。「あそこは昔〇〇だったんだよ、あそこには△△があったね」なんてお話は街を知る上でとても貴重だと思います。今回はそんな街の歴史が知りたくて、「大山道おこし委員会」の協力で開催された、用賀商店街振興組合特別セミナー「用賀の歴史を知ろう！～これであなたも用賀通！？」に参加してみました。用賀に長くお住まいの達人の歴史と地域のお話「へえ～ほお～」の連続！むかしあそこはああだったんですよ！

第1部：地元の皆様による「用賀の歴史」のおはなし



<飯田恭次さん>

郷土史家である、飯田恭次さんからはパンフレット「歴史を彩る用賀の道いまむかし（ハロー用賀で入手可）」を使っただけの用賀の地形の変遷のお話のあと、右の年表に従って町の歩みのお話を聞かせていただきました。中でも興味深かったのが、終戦直後の東條英機機長の逸話。用賀に住んでいた東條さんが戦後、自宅で歴史上には出てこないあることをしました。それは何か？知りたい方は次回イベントに参加すると聞けるかも。



<鈴木堅之さん>

用賀南町会長の鈴木堅之さんからは、戦後は国道246が「弾丸道路」と呼ばれ厚木基地の戦車や軍用車がひっきりなしに走っていたお話などを聞かせていただきました。



<用賀1丁目交差点>



<金子倉一さん>

上用賀町会長の金子倉一さんからは、昭和18年ころの道は、草ぼうぼうの道の真ん中を人が歩き、その両側を車が走ったり牛を引いたりして、大山に行くにはそのような道を経由まで歩き、そこから小田急に乗って行った、というお話を聞かせていただきました。

生粋の用賀っ子、鎌田嘉次さんからは、かつてこの近辺には京西小しか無く、生徒数が増えすぎ、昭和17年に二子玉川、27年に桜町、29年に瀬田、31年に用賀の各小学校が京西小の分校として開校し、さらに鎌田さんが通っていた27年ころは京西小の生徒数はなんと1700人、1クラス65～66人、低学年は2部制でしかも青空教室だったという、驚きのお話を聞かせていただきました。



<鎌田嘉次さん>

理容ウラウラさん



昭和40年ころでしょうか、現在の用賀のauショップの前から桜新町方向を撮った写真。拡大すると「理容ウラウラ」さんがいるのがわかります。



玉電の軌道が撤去され、道路となった道。位置関係はちょっと不明です。

私たちの町の歩み 用賀、上用賀、玉川台

平成24年 飯田

西暦	年号	できごと
1879	明治12年	瀬田、用賀連合村成立、京西小学校創立
1889	明治22年	東京府荏原郡玉川村誕生、等々力に村役場
1907	明治40年	玉川電車開通(渋谷～二子玉川)
1908	明治41年	神明社が用賀神社になる(八幡社、天神社合祀)
1920	大正9年	陸軍自動車学校 世田谷通り北側に建設
1926	大正15年	玉川全円耕地整理事業組合発足
1929	昭和4年	陸軍衛生材料廠 玉川村大字用賀に移転
1932	昭和7年	世田谷区成立 玉川用賀町1～3丁目
1934	昭和9年	用賀西工区(上用賀地域)耕地整理工事開始
1939	昭和14年	京西小学校 現在地に移転
1940	昭和15年	馬事公苑完成、砧緑地計画、東條英機邸
1945	昭和20年	学童疎開、東京大空襲、太平洋戦争終わる
1954	昭和29年	玉川全円耕地整理事業完了
1958	昭和33年	用賀小学校創立 (東京タワー完成)
1959	昭和34年	用賀中学校創立 (皇太子結婚)
1964	昭和39年	東京オリンピック、馬事公苑に覆馬場完成
1966	昭和41年	環状八号線一部完成、砧ファミリーパーク開園
1968	昭和43年	新住居表示にて玉川用賀町は用賀、上用賀、玉川台に
1969	昭和44年	玉川電車廃止、東名高速道路全通、世田谷清掃工場完成
1970	昭和45年	「ふじみ荘」「ひまわり荘」開設
1972	昭和47年	中央卸売世田谷市場開設
1973	昭和48年	下水道工事 上用賀地区から始まる
1977	昭和52年	新玉川線開通 用賀地上出口3ヶ所
1986	昭和61年	世田谷美術館開館、用賀プロムナード竣工(一部)
1989	昭和64、平成元年	世田谷清掃工場 新煙突完成
1993	平成5年	用賀駅SBSビル竣工
1994	平成6年	上用賀アートホール開館、西用賀通「地下雨水管」完工
1995	平成7年	砧パークブリッジ完成、砧公園再生工事
1996	平成8年	「用賀七条通り」正式名決定
1997	平成9年	用賀、上用賀「条通り」実施、砧公園芝生広場完成
1998	平成10年	ふるさとめぐり「用賀馬事公苑コース」石標完成
2000	平成12年	「新玉川線」の名称が「田園都市線」と変わる
2001	平成13年	用賀商店街ショッピングプロムナード竣工
2003	平成15年	田園都市線、半蔵門線、東武線直通運転始まる
2008	平成20年	世田谷清掃工場改築落成
2011	平成23年	京西小学校新校舎竣工
2012	平成24年	世田谷美術館再開(改修工事終了)

* いろはに乃サッチ#38「き」 *

～聞いて極楽見て地獄～

「き」は、江戸では「聞いて極楽見て地獄」。これは、人から聞いたことと、実際に自分で見たことの差がはげしく、実際は非常にひどい、という意味。京・大阪は「義理と禪は欠かされぬ」。これは、男にとって、義理というもの、世の中を渡っていく時、必要となってくるということ。昔は、男にとってふんどしは、必ず身につけてはならないものとして、一般常識であり、そのように日常で必要となるものが、ふんどしと、義理であったところから来ています。ノーパンはダメです。



用賀に芝居小屋・映画館があった！

かつて用賀には芝居小屋と映画館がありました。芝居小屋は現在の用賀中町通り沿い、当時は畑だった郵便局の辺りにあり、年に1・2回、全国巡業している劇団が来て丸太とむしろで芝居小屋を作り上演していたそうです。宝塚出身の女剣劇スター「大江美智子」率いる一座もきたそうです。映画館は昭和30年代、現在の北口駅前薬のセイジョーさんのところにあったそうです。ロードショーなどが上映され、当時は鑑賞料が30円だったそうです。Always 用賀の夕日って感じですね。

第2部：まちあるき

第2部は「まちあるき」。大山道場のみなさんのガイドを聞きながら実際に用賀の町を歩いてみました。「ちい散歩」のような「ブラタモリ」のような秋のひとつときでした。

用賀神社



用賀神社は以前神明社といい、その創立の年代は不明ですが、明治41年(1908)と一緒に祀った八幡社は、天正年間に鎌倉の鶴岡八幡宮より分霊を迎えたといわれています。この合祀の際上用賀にあった天神社も合わせて祀られました。祭神は天照皇大神、応神天皇、菅原道真ほか数柱です。また、神田明神より移入したと伝えられる獅子頭一対があり、昔は、秋の大祭に五穀豊穡、悪疫退散を祈って若衆にかつがれ、村内を練り歩いたと伝えられています。境内には「力石(りきいしではありません。ちからいしです)」があります。

今回のイベントの立役者！
ハロー用賀の平井夏子さん



お揃いのベストを着て参加者を
先導する大山道場のスタッフ



<力石>

重さは約120キロ。昔はこの石を持って走る力比べが行われていたそうです。見るからに重そうですが、元関取の小錦のピーク時の体重が285キロということ考えると、お相撲さんクラスの体格の方なら意外と持てるのかも知れません。が、決してチャレンジしやうとしないでください。危ないです。腰も痛めるでしょう。因みに白鵬の体重は154キロ、日馬富士は133キロ、把瑠都は193キロですから、私たちが「力石」を持ち上げるのは体重117キロのホンジャマカの石塚英ちゃんが、把瑠都を持ち上げるようなものではないでしょうか？よくわからない例えで申し訳ありませんが、皆さんも一度「力石」を見に行ってみてください。



大山道追分



江戸時代、相模の大山詣での人々が、毎日のように用賀を通っていたころ、ここに高さ1m20cm位の道しるべの石塔が建っていました。正面には「庚申塔」という字が刻んであり、右は江戸道、左は世田谷四谷道と書いてありました。建てられたのは1827年で、当時この三叉路の近くには、旅館や酒店、料理屋などいろいろな店が軒を並べ、用賀村の中心で、とても賑やかなところだったそうです。追分から共立信組さんへ抜ける道は「水道みち」といい、大正時代、渋谷方面へ水道を引くために水道管を埋めた場所です。水道は、多摩川の水を砧で汲み上げ、岡本、用賀、桜新町を経て駒沢の給水塔に一度溜め、高さを利用して渋谷の方へ送るという方式をとっていました。



<水道みち>



天神溜池跡



ここは江戸時代の中期、享保5年(1720年)に用賀村人たちが田んぼに使う水を溜めるために作った池の跡です。当時、池は広さが約1000坪あり、3つに分かれていたそうです。池の西、小高いところには天神様の社がありましたので、村の人たちはこの池を「天神の池」と呼んでいたそうです。この池の水は、田んぼに水を送りながら、谷沢川となって、下流で等々力溪谷を通過して多摩川に流れていました。

もう1箇所「衛生材料廠跡」にも行く予定でしたが、時間の関係で説明と遠くに衛生材料廠跡=現、国立医薬品食品衛生研究所の煙突を望んで移動しました。

衛生材料廠跡の煙突



用賀名主邸跡



この持ち主は第1部で貴重なお話をしてくださった、飯田恭次さん。飯田さんのご先祖は名主だったんですね。また、文献によると、ここは、江戸時代の中頃、宝暦3年(1753年)に飯田安之蒸が代官であった飯田平兵衛家から分家した家で、1786年に代官家が領外追放となってからは本家を相続したため、世が世なら飯田恭次さんはお代官様になっていたということになります。へへえ～。

普段は開放されていませんが、今回特別に中に入れていただきました。昔ながらの平屋造りで奥には「蔵」があり、鬱蒼と生い茂る木々のおかげか、涼しさを感じることもできました。たまにドラマなどのロケにも使われているそうなので、もしかしたらこの写真を見て「あれっ」と思われた方もいるのではないのでしょうか。



<重厚な蔵>



真福寺



<別名赤門寺とも>

次回チャンスがあったら皆さんも是非ご参加ください



<応援に駆けつけたよっきー>

それ行け!! アサッチ

